

2020年度 学校評価報告書

青山高等学校

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的な学びによる高い学力をつける教育の実践 ○グローバル社会で活躍するための資質を持ったリーダーの育成 ○科学・文化芸術活動の活性化により高い成果を求めた活動 ○東京フォーラムを加え新たな層を取り込み、生徒数を回復させる
------	---

(1)学校基本方針における今年度重点取り組みについての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> ①感受性豊かな生徒を伸ばせる環境を作る ②規律ある生活で自立力を身につけ、相手を思いやる心を育てる ③理想の上級生像を示すことによって、手本となる上級生を育成する ④生徒理解を深めることによって、個性を伸ばし大きく成長させる指導を実践する 	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、3密防止を徹底するため様々な活動を制限しなければならず、当初計画していた研修や会議・ミーティングなど十分に開くことができなかった。また、代替策を検討し試行錯誤するが、目標とする成果を得ることができなかった。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため感染予防のためのマニュアル「青山高校での新しい生活」を作成し徹底するために、各寮、各クラスにおいて少人数で活動できる委員会活動としてマニュアルを実践し徹底をはかった。自主的な活動により生活環境の衛生環境の改善や意識の向上につなげることができた。</p>
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ①第一段階の学習をより効果的なものとし、学習の第二段階への確実な移行を促進する ②担任、教科、寮、進路指導部等が連携した第二段階の学習指導体制を推し進め、学習計画に基づいた指導を実践することにより、深い学びの第三段階への移行を実現する ③模試の結果分析の体制を整え、結果を共有することで、担任・教科・寮・進路指導部が連携し 	<ul style="list-style-type: none"> ① 新年度当初からの休校措置に伴いオンラインを活用した授業を開始することで、授業の遅れを縮小することができた。 ② 1年生の学習である第一段階の学習において、英語の音読学習が新型コロナ感染症予防の観点から行うことができず音読学習において非常に遅れが生じてしまった。また、新型コロナウイルスの感染拡大の影響による 	<ul style="list-style-type: none"> ① 試行錯誤しながらのオンライン授業であったが休校期間取り組むことができた。 ② 1年生の学習における一斉学習について新型コロナ感染症の感染拡大の予防策を講じての取り組みを模索しつつ進めてきたが、効果的な学習法を見出すことができていない。 ③ 上位クラスでは担任を中心に各教科担当者との連携ができつつあり学習進度や内容に

	<p>た進路指導ができるよう、教員の意識と指導スキルを向上させる</p> <p>④Classi の活用を促進し、ポートフォリオによる活動記録の蓄積、学習状況の把握など行うことにより進路実現につなげる</p> <p>⑤新学習指導要領で求められる指導スキルを習得するため、積極的に研修等に参加するとともに、授業見学などを計画的に実施しながら指導力と資質の向上を図る</p> <p>⑥検定試験の資格取得を基礎学力の定着と向上のためと位置づけ、日常の継続的な指導を確実に行うとともに、進路実現に応じた受験内容の設定をおこなう</p>	<p>休校措置による新年度開始時期が遅れたため当初の計画に遅れが生じてしまった。ただし、1年生においては、授業を進めることができなかった。</p> <p>③ 2年生の学習指導である第二段階の学習において特Sコースの学習に関しては、担任が中心となり寮や教科との連携がなされる体制が徐々にできつつある。</p> <p>④ 3年生の学習である第三段階においては、特進 S コースにおいて担任、進路指導部をはじめと寮や各教科とも連携し指導にあたることができ進学実績にもつなげることができた。</p> <p>⑤ Classi の活用においても徐々に活用する機運はでききてはいるものの新型コロナの影響により課外活動など多くの活動を行うことができなくなり記録ツールとして利用する機会が極端に少なくなってしまった。</p> <p>⑥ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため様々な研修会がなくなり参加できなくなってしまった。オンラインによるものも開催さ始めてきたが、研修を受ける環境が十分ではなく有効に活用することができなかった。</p> <p>⑦ 日々の学習における検定試験への取り組みは定着しつつあり、基礎学力の定着に結び</p>	<p>ついて個々の学習状況に合った指導ができつつあるが、その他のクラスでは、全体での指導から、個別の指導への移行がうまく進んでいない。個々の生徒の学習状況の把握と細かな学習指導体制が求められる。</p> <p>④ 特進 S コース以外のクラスにおいては、学習状況が第三段階まで進んでいない状況のため2年次の学習指導の確率が為される必要がある。</p> <p>⑤ Classi を活用する習慣付けが必要である。活動機会が少なくなったため、記録ツールとしての利用が減ってしまい使いこなせていない状況となってしまった。日々の学習状況やクラブ活動における活動の工夫など記録場면을積極的に作ることが求められる。</p> <p>⑥ 校内においてオンラインで講習を受講する場合の個室など周囲を気にせず受講できる環境が十分ではないことが解題となる。</p> <p>⑦ 新年度開始時期が遅れたための学習進度の遅れは徐々に解消しつつあるが、検定試験の受験時期のみをこれまでと比較すると合格者数は少なくなってしまっているが、来年度以降この数は、例年と同数となるものと思われる。</p>
--	--	--	---

		ついてきているが、年度当初に休校したことにより学習進捗についての遅れが出てきている。	
知的活動 (時代が求める活動)	<p>①探究学習を「今を知る活動」と連携し、主体的な学びを深め「問題意識」「情報収集力」「整理・分析力」「表現力」などの力を培い、社会に貢献できる力をつける</p> <p>②高い目標を掲げ研修会や講習会等で積極的に学び或いは外部指導者の協力を得ることで、大会やコンクールで成果をあげられるクラブ・サークルを育成する</p> <p>③桜丘高校の知的活動との交流を深めて手本とすることで活動レベルの向上につなげる</p> <p>④教員の指導スキル向上のため積極的に研修へ参加する</p>	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、活動の制限が求められる中、様々な大会やコンクール、研修会などが中止となり、さらに校外での活動も制限しなければならない状況となり、これまでと異なる活動のあり方、目標設定など模索するが、年度当初の活動計画・目標ともにまったく成し遂げられない状況となってしまった。	様々な活動において感染拡大防止のための制限が設けられたためオンラインによる活動も一部取り入れて行なっているが、活動場所とオンラインの利用できる環境の制限などから十分な効果を得るには至らず、更なる工夫と環境の整備が必要となる。
芸術活動	<p>①芸術活動の各分野で芸術リーダーを育成し、活動の活性化を図る。特に合唱や吹奏楽などの音楽活動への支援を強化する</p> <p>②クラブ・サークル活動の指導体制を整え高い目標を掲げ取り組むことで、校外での大会、コンクールで入賞可能な活動を育成する</p> <p>③校内行事などを利用し、感受性豊かな才能ある生徒の発掘ができる体制を構築する</p> <p>④校外研修、講習会、外部指導者を積極的に活</p>	新型コロナウイルス感染症の感染防止のため行動及び活動の制限が為される中で、クラブ活動やサークル活動を行うことができず、当初計画を大幅に変更しなければならなくなってしまい予定していた成果を上げることはできなかった。	全ての活動が、感染状況を見ながらの活動となり、長期的な計画を立てることが難しく、計画的な指導の実施や効果的な活動を行うことができなかった。

	用し活動レベルの向上つなげる		
リーダー育成	<p>①今を知る活動を通して、時代の流れを読み解く力を育み、時代に対応できる人材を育成する</p> <p>②寮委員会活動、クラブ活動、生徒会活動及び実行委員会活動を通して各分野でリーダー生徒を育成する</p> <p>③7つの習慣を継続的に学ぶことで、セルフリーダーシップ(私的成功)及び公的成功を果たせる生徒を育てる</p>	<p>新型コロナウイルスへの感染防止のため全ての活動の見直しと活動制限により、活動計画など見直しを行ったが、その時々々の感染状況を見ながら活動しなければならず、活動そのものが大幅に制限されてしまった。しかし、感染防止のために作成した新たな生活のための感染防止マニュアルに則った生活を送るために寮委員会が積極的に活動し衛生状況の改善やマニュアルを遵守した生活を率先して行うなどリーダーシップを育むとともにセルフリーダーシップの育成に努めることができた。</p>	<p>各寮内における委員会活動が、新型コロナウイルスへの感染防止のための活動に行きすることにより、自主的に感染防止策を取るとともに感染防止マニュアルに則った生活を率先することにより幹線棒に寄与することができ、組織的な活動を展開することができた。</p> <p>11月の一斉帰省後に1名の生徒の新型コロナウイルスへの感染が確認されたが、感染防止マニュアルに沿った生活や行動が取れていたため、感染が拡大することもなくこの1名のみで抑えることができた。</p>
企画広報活動	<p>①首都圏の知的好奇心の高い生徒・保護者が魅力を感じる活動を創造し推進する</p> <p>②多彩な活動が活発に行われている状況を様々な媒体を利用して発信できるよう活動を支援する</p> <p>③教員研修を重ね、生徒保護者からより厚い信頼を得られるオープンキャンパスとする</p>	<p>新型コロナウイルスの感染拡大により、様々な活動が制限されてしまい効果的な発信をすることができなかった。</p>	<p>オープンキャンパスについても新型コロナウイルスの感染状況を見ながら在校生との接触を避けながらの開催となり教育内容の説明に秀知ることとなり、その活動を在校生の活動を通して理解して頂くことができなかった。</p>
生徒募集	<p>①寮教育・不登校問題への取り組み方など本校の教育活動を中学校教員、保護者、生徒等それぞれの立場にあった視点で効果的に伝え、中学校訪問やフォーラム、オープンキャンパス時の個別懇談で成果をあげるための研修を重</p>	<p>① 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言などにより、訪問活動などが大幅に制限されてしまい対面での募集活動ができなくなり、個々の状況に合った説明などができなくなってしまった。</p>	<p>① 新型コロナウイルス感染症の拡大地域へ出向いての訪問活動ができなくなってしまったことから郵送による資料の送付及び電話を利用しての募集活動を試行的に実施している。郵送資料の内容など工夫し郵送回数を</p>

	<p>ねスキルの向上を図る</p> <p>②東京フォーラムの定期的な開催により首都圏からの入学生徒の拡大を図る</p> <p>③不登校フォーラム開催時に相談会を同時開催し、入学希望者の増加につなげる</p> <p>④オープンキャンパス開催時期の参加者層に合わせてテーマを設定し、参加者のニーズに沿った内容として受験者の増加につなげる</p> <p>⑤中学 2 年生のオープンキャンパス参加生徒の早期確保に向けた効果的な仕組みを検討し入学者の増加につなげる</p> <p>⑥各中学校の教員全員の目に触れる資料を研究し作成することで、新任教員を含めた多くの教員に対して本校の情報を効果的に伝える</p> <p>⑦通常区の訪問活動と資料郵送の連携により効果的な情報提供を行い、本校の理解を促進させる</p> <p>⑧通常区訪問地域・中学校の再編を行い、効率的・効果的な訪問活動を行う</p> <p>⑨転校希望者の転校理由に応じた説明や案内生徒の選定などきめ細やかな対応により安心感を与え見学から入学につなげる</p>	<p>② 毎年開催している不登校教育フォーラムについても緊急事態宣言などの影響により開催できなくなってしまった。</p> <p>③ オープンキャンパスについても参加者数の制限、在校生との接触なしなどの制限を設けての開催となったため例年に比べ参加者数が大幅に減ることとなった。</p> <p>④ 入学試験においても新型コロナウイルスへの感染リスクを懸念する声が聞かれるため、オンラインでの入試を試行的に実施している。</p>	<p>増やしている。</p> <p>② 各地域でのフォーラム開催が難しくなっていることから、Zoom を用いたオンラインでの開催を試行的に実施している。ただし、個別の相談など面談担当者の数を増やすことが難しいためこの対応への課題が残っている。</p> <p>③ オープンキャンパスにおいても来校に伴う移動の際の感染リスクを懸念する声も聞かれるため、Zoom を利用したオンラインでのオープンキャンパスを試行的に実施している。ただし、同時に開催している個別相談において担当者数に限りがあるため参加者を制限しなければならないところに課題が残っている。</p> <p>④ オンラインでの入試について少人数であれば実施可能な状況ではあるが、希望者が一定数より増えた場合の実施方法について検討が必要になる。</p>
--	---	---	--

(2)組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強み	<ul style="list-style-type: none">・目標に向かう取り組みの中で、教員間での協力体制がとられている。・生徒の新型コロナウイルスへの感染などの緊急事態が生じた際、教員間の連携が保たれ組織的に対応することができる。・生徒の安全や衛生管理状態を保つための協力体制がとられている。・生徒の学習指導における教員間での連携がなされている。
弱み	<ul style="list-style-type: none">・長期的な展望に立っての取り組みが十分できていない。・様々な取り組みにおいて主導する教員に限られ、新たな人材が育成されていない。・全寮制教育のメリットが十分発信できていない。

(3)学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容	
<実施回数> 4回	
実施内容	<p>第1回(4月):令和2年度の教育方針・活動計画及び教育目標についての説明、意見交換</p> <p>第2回(5月):令和元年度活動計画の見直し等についての説明、意見交換</p> <p>第3回(11月):活動状況報告及び意見交換</p> <p>第4回(3月):令和2年度活動報告及び成果等報告、意見交換</p>

(4)学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関係者評価	<ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルスへの感染防止策を講じながら実施可能な活動の模索の検討(オンラインの積極的な活用など)・より確実な新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための対策(積極的な抗原検査の実施など)・クラス担任、各教科、寮が連携することによるより効果的な学習指導体制の構築・全寮制教育の魅力の発信のための具体的方策及び体制作り

(5)組織力向上のための取り組み(改善策)

次年度に向けた取り組み

- ・オンラインによる活動の活性化を促進するための環境整備と体制作りを図る
- ・コロナ禍における活動再開のために必要な対応と対策の実施
- ・クラス担任、各教科、寮の連携強化のための体制構築による学習成果の向上
- ・全寮制教育の魅力発信ツールと発信方法を効果的に活用し生徒募集の拡大に活かす